

「リニア中央新幹線」計画についてシリーズでお伝えしています。

今月は、2月に開催された坂本まちづくりフォーラム2015とリニア地域活性化講演会についてお伝えします。

問リニア対策課（管内線214）

坂本まちづくりフォーラム2015

2月28日(土)、坂本地域まちづくり推進協議会主催によるフォーラムが坂本公民館ホールで開催されました。

はじめに、須田寛東海旅客鉄道株式会社相談役による「地方創生とリニアのまちづくり」と題した基調講演が行われ、続いてパネルディスカッションが行われました。

基調講演では、「リニアの時間短縮効果により日帰り観光が増加する。これは、地元にとっても致命的で、おもてなしや受け入れ態勢を徹底するなど長く宿泊してもらえないようにまち同士が連携し滞留時間を延ばす仕組みが必要。」と述べられ、「これからは、労働力人口が減少し、増加した高齢者が暮らしやすいよう公

共交通を活用したコンパクトシティを目指すべき。」と提案されました。また、パネルディスカッションでは須田相談役、青山中津川市長、丸山中津川商工会議所会頭、市岡坂本地区区長会長が参加し、リニア開業に向けた地域づくりについて意見を交わしました。



リニア開業に向けた地域づくりについて意見を交わす
 (左より丸山会頭、青山市長、須田相談役、市岡会長)

青山市長は、「中津川市は古くは東山道、中山道、飛騨街道などの交通の要衝として栄えたまちで、この

歴史を踏まえ、重要な交通結節点としてリニアを活用したまちづくりを進めていきたい。」と述べました。

丸山会頭は、産業観光について「リニアは乗るのも観光だが、見るのも観光である。これは、まさに産業観光の究極のもので、商工会議所が推進するリニアの見える丘公園に、旧国鉄の品を展示した鉄道記念館や地産地消の『道の駅』を整備し、緊急時には防災ヘリコプターを着陸させるようにして防災面の側面も持たせたい。」と考えを示しました。

フォーラムには、約500人の来場者があり、リニア開通を見据え、この地域のまちづくりをどのように進めていけばよいのかをみんなで考えるよい機会となりました。

リニア地域活性化講演会

2月17日(火)、中津川商工会議所とリニア中央新幹線まちづくり推進中津川市民の会の共催による講演会が東美濃ふれあいセンター歌舞伎ホールで開催されました。

日本総合研究所調査部の藻谷浩介

主席研究員を講師にお迎えし、「リニア・インパクトと中津川」と題し、ご講演いただきました。

講演では、日本全国のほとんどの都市を旅行した経験から「全国すべての新幹線駅を並べてみても、郊外に作った新駅の駅前が都会になっただけは皆無。」と述べ、「どこでも同じ新駅前乱開発ではなく、中津川にしかできない、水と緑と花に埋まった駅前を。」と提言されました。

日本全国見聞されたことをもとに話されることには説得力があり、熱心に講演を聴く方が多く、関心の高さがうかがえました。



ユーモアたっぷりに講演される藻谷先生